



平成21年

羅臼町広報誌

1
2009

No. 232

魚の城下町

みんなが主役のまち

平成21年 羅臼町成人式

忘れかけていませんか 北方領土は日本だということ。



北方領土について答えることができますか？

北方領土の島々は3つの島と1つの群島からなっています。

地図を見て、島の名前を答えることができますか？

答えは次ページに下段に記載しています。

北方領土の現状

択捉島、国後島、色丹島には約1万7千人弱のロシア人が住んでいます。また、歯舞群島については国境警備隊員しか住んでいません。経済的には、漁業と水産加工業が盛んで、特に択捉島には「ギドロストロイ社」という水産加工会社が進出し大きな経済効果をもたらしています。

ロシア政府も2007年から9年間で総額約807億円を投入する計画があり、地熱発電所や港湾の整備など社会基盤整備に力を入れています。



択捉島の地熱発電所。着々と社会基盤整備が進められている。(2008年9月撮影)



色丹島の市街地。会館と数件の商店がある。(2007年9月撮影)

北方領土問題とは、日本固有の領土である北方領土は第二次世界大戦の終了直後、ソ連軍によって不法に占拠されたことが始まりです。現在もロシアによる占拠が続いており、日本国内の返還運動をよそに、返還交渉は進展せず時間だけが過ぎていく現状です。

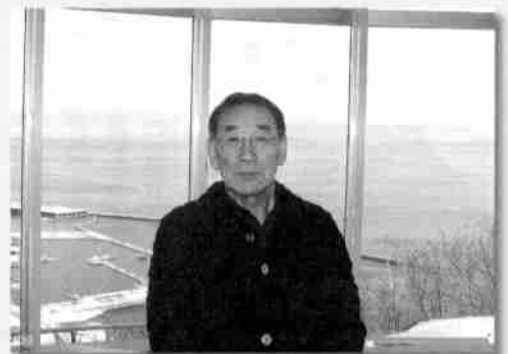
私達の生まれ育った羅臼の眼前にはいつも国後島があります。しかし、日本の領土であるという前提とは別に、現実には領海があり拿捕問題や漁具被害など羅臼においても関わりの深い問題です。

今一度、北方領土問題について考えてみませんか。

元島民インタビュー

故郷の地に自由に
行くこともかなわず
お墓を参る事も
できない。
こんなさみしい
ことはない。

元島民 高岡唯一氏（船見町）



国後展望塔で北方領土を見ながら、
お話を伺いました。

叙情歌「故郷」を歌うと今でも当時のことがはつきりと思い出されます。私は齒舞群島の多楽島で生まれ10歳まで、家の昆布採りを手伝いながら過ごしていました。

1945年8月、日本が敗戦し終戦の報が大人たちの間に伝わり始めました。そして9月上旬のことです。外人を見るのも始めてでしたが、突然、大きなソ連兵がやってきて、家に土足で上がり何事か怒鳴り、そして、持っている銃で仏壇の飾りを引っ掻き回しました。私は恐ろしくて、母の背に隠れているのが精一杯だった事を今でも覚えてます。このようなことが、数日間繰り返され、私たち家族は島を脱出する事を決意しました。雨の降る時化の日でした。木造の焼玉船で出航し、何とか根室に上陸し近くの住民の方に助けていただきました。

親たちが島の脱出を決意するということは、死と隣り合わせの状態ですから、言葉では言い表せないくらい追い詰められていたのだと思います。

また、島に残った方は1947年頃強制送還に遭い、更にひどい目にあつたと聞かされています。

私は、その後、根室に住み学校を卒業しました。その時の恩師である近藤清治先生（当時の羅臼小学校校長）から、羅臼運輸（現辻中商店）で、事務の出来る者を探しているとの誘いで羅臼にきました。その時お世話になった谷内田進さんに北方領土返還活動について教えていただき、今も活動に携わっています。

北方領土問題については、ソ連が行なった不法占拠は到底許す事はできません。また、日本の国民には北方領土が日本の領土であるという事をもっと知って欲しいと思います。このまま、忘れ去られてしまうのではないかと心配しています。そして、住民運動は大切ですが、やはり国が日本国として四島返還を推し進めて欲しいと思っています。

最後に元島民も高齢になって来ています。体験を語る人間が少なくなってきましたが、学校などからお話があれば、お話をさせていただきますので声をかけてください。

返還活動の紹介

返還要求活動がありますが、町内で行なわれている活動を紹介いたします。



毎年夏に行なわれている知床峠での署名活動。



北方四島受入交流事業（ホームビジット）は両国の意見交換の場となっています。

返還祈願活動に是非ご参加下さい！

北方領土の日2月7日(土)6時30分から国後展望塔にて「美しい日の出を観ながら北方領土返還祈願」を行います。参加してみませんか。

詳しくは役場総務企画財政課までお問合せ下さい。

【お問合せ先】 TEL 87-2111

答え ①択捉島 ②国後島 ③色丹島 ④齒舞群島

羅臼の地域医療を考えるシンポジウム開催



昨年11月1日、羅臼町商工会において2008羅臼の地域医療を考えるシンポジウムが、町主催（主管・羅臼地域医療を考える実行委員会）で開催されました。当日は、「地域医療再生への処方箋」と題して、千葉県立東金病院院長 平井愛山先生の基調講演がありました。そして、引き続き「羅臼の地域医療を守っていくために」をテーマにしたパネルディスカッションが行われましたので、内容を抜粋して皆さんにご紹介致します。

**医者のやる気だけでは持続は無理！
住民も行政も変わる必要あり！**

司会
穂別町がむかわ町と合併する前、町立病院は大変な赤字を抱えていました。赤字を抱えたまま合併するわけにはいけませんので、コンサルタントをいれて検討した結果、無床の診療所にするのが一番いいという報告がされました。でも診療所に残る事になった一木先生の意向で19床のベッドをおきましたが、ベッドがあった方がいいと思っただ理由は？

一木
有床にしたのは、ある程度の急性期の患者を診ていきたいのと、在宅患者の最後の看取りをしたい。中々自宅で最後を看



コーディネーター（司会）
NHK制作局第一制作センター
チーフ・ディレクター

米原 尚志 氏

昭和54年広島大学政経学部卒業、同年、NHK入局。平成17年「NHKスペシャル タクシードライバーは眠れない」で文化庁芸術作品賞優秀賞受賞。近年は地域医療をテーマにした番組制作を続けている。



むかわ町国保穂別診療所所長

一木 嵩宏 氏

平成2年札幌医科大学卒業後、同小児科に入局し、関連病院などで6年間小児科研修。その後、地域医療に転向し平成8年聖隷三方原病院の後期研修医となり各種研修修得。認定医：日本小児科学会専門医 他

取るのは家族にとっても難しいので入院を希望する。地域的に穂別は山の方にあるので40kmあるむかわ町の80床の厚生病院まで搬送しなければいけない。100床の特別養護老人ホームで肺炎になる入所者が多かったため、ベッドが無いと安定した地域医療は提供出来ないと思いい、19床を残しました。

司会
19床のベッドが無いとその地域で死ぬなくなるという事ですね。

一木
そう言う事です。

司会
町立病院時代、一木先生は自分の給料を下げました。その代わり医師を3人にして欲しいと。ところが一木先生は11月一

杯で穂別診療所を辞められます。どうして穂別診療所をお辞めになろうと思ったのですか？

自分なりに地域医療を守るには365日救急をやるべきだと頑張った。医師3名を維持するように努力してきたが、行政や町民がおまかせモードで時間外受診を減らすなどの取組みがなかった。

医師は大学に頼らず自分で集めていたが、12月一杯で1名辞めるので1月から2名体制になる。色々な所で探しているが見つかからない。それなのに町からは今の救急体制とベッドを維持して欲しいと言われる。もう、期待に応える事が出来ない。

人口3,700人で時間外診療が1,200人は確かに多い。一晩に何回も起こされるんですよ。

2〜3時間おきに起こされます。大きな国道が通っているので事故も入ってくるし、その他に軽傷な患者もきます。呼ばれない日もありますけど…。

町に感謝して欲しいと思わないが無視されてる感じがする。一晩働いても「昨日はご苦労さまでした」とも言われぬし、当たり前なのかなあって思ってしまう。

「先生位給料もらってれば…、自分達だって毎日当直しますよ」と事務の人に言われたりとか。

ひどい話ですね。週に2日は当直をし、夜は眠れない。お疲れ様も言ってもらえない。

昔からそういう感じだったのであきらめていたのですが、年を取ったせいかわりか回復が悪いというか、使命感だけじゃもた

いと最近思うようになってきたんです。

一木先生の話は重要です。羅臼町が将来再生に向けて動き出して、一木先生のような医師がきて、19床のベッドをもって救急をやるようになったとしましょう。皆さん同じ事をしますか？住民も行政も変わらないといけない。

家族は何て言われました？

嫌なら辞めたらと。子供たちには「医者には絶対ならない」と言われました。

穂別の例を、自分の問題として捉え直すことが重要

先生の子供たちが「自分は医者にはならないよ」と言う町にしては駄目じゃないですか。

一木先生は今月いっぱい辞めたら、夕張希望の杜の村上先生のところにもう1人の先生と入られます。

この間、むかわ町の町長と副町長が村上先生の所へ行きました。「365日、24時間救急を守りたいので協力して欲しい」と村上先生は町長と副町長に「まだ、そんな事を言っているのか。3人の医師で24時間救急をどうやってやっていくのか、週に2日も宿直させて、頑張っている先



丹波新聞(兵庫県丹波市)記者

足立 智和氏

兵庫県丹波市、篠山市を発刊エリアとするローカル新聞の編集部記者。

住民が地域医療を守る1つのモデルとされ、全国的に注目を集める「県立柏原病院の小児科を守る会」の設立に携わり、住民活動に刺激された開業医・薬剤師・歯科医師・市民らで作る「丹波医療再生ネットワーク」の中心メンバーとして活動。

生を苦しめている。そのことを実現するには7人の医師を用意し、それなりにお金も出しなさい。一木先生が何と言おうと休ませます」

むかわ町の町長はどう決断するのか？むかわ、穂別の町民、行政は医療を守るのにどうするのか？

ぜひ、羅臼の皆さんは自分の問題として考えていただければと思います。

次は丹波新聞の足立記者です。丹波に県立柏原病院があります。300床くらいで中標津病院よりちょっと大きいです。その小児科の医師がどんどん減って2人になってしまった。2人しかいない医師のうち1人が院長になり、なかなか外来を出来なくなりました。もう1人の医師が「これ以上出来ませんので辞める」と言ってきた。それを足立記者が新聞で伝えました。平成18年の2月位に医師が辞めると言う話になって何が起きたかをお話し下さい。

柏原病院で先生が辞めると言うことで座談会が開かれました。お母さん10人位で話しをしました。初めはそんなの困る、なぜこんな事になったの？これからどうなるの？とか言っていたのです。しかし、あるお母さんが子供が喘息で病院を受診した時のエピソードを話しました。

夜8時位に救急外来に行くと、多くの患者がいて自分の子供が受診出来たのが午前2時。入院出来たのが午前4時。そのままお母さんも寝てしまったのですが、処置しておきましたと紙に書いてあって、午前4時まで自分の子供をみてくれた先生が午前8時から働いているという事を



北海道家庭医療学センター理事長
草場 鉄周 氏

平成11年京都大学医学部卒業後、北海道室蘭の日鋼記念病院にて初期研修、北海道家庭医療学センターにて家庭医療学専門医研修を終了。

平成20年 医療法人北海道家庭医療学センターを設立し理事長に就任。

司会

紹介しました。こんなにやってもらっているのにこれ以上頑張ると言えない。この先生を守っていかないといいけないという話しになった。「コンビニ受診を控えて、本当に必要な患者が必要な時に受診できるように気を付けます」と県に医師を派遣してくれるように5、500人の署名を集めて提出しました。県庁の職員は「丹波から神戸へ30分で行けるよね」とか言って真剣に取り組んでくれない。それで自分たちでお医者さんが来てほしいなと思う地域を作っている」と、「子供を守ろうお医者さんを守ろう」をスロガンにコンビニ受診を控えよう。かかりつけ医をもとう。お医者さんに感謝の気持ちや伝えよう。と住民に呼びかけました。

辞めると言った医師は「こんなに自分の事を思ってくれる住民がいるんだから、辞める気持ちにならなかった」と今も続けて勤務してくれています。

コンビニ受診を控えようといってもどの程度控えていいかわからないので小児科の先生と相談しながらチャート図を作り活動を広めています。

住民が自分達で医師を守ろうとした事は画期的なことと話題になって舛添大臣がきましたね。

足立

舛添厚生労働大臣はわかっている。いくらか国が頑張っても日本の医療を守る事は難しい。だから国民が仕掛けていく雰囲気が出来なければ再生する事は難しいと。

司会

北海道家庭医療学センター理事長の草場先生は、専門医ではなく一人の患者の全身を診る総合医を育てながら地域に医師を送っている。最初に始めた19床の更別診療所では3人の医師が働いています。地域に家庭医、総合医の役割は大きいですか？

草場

更別村も8年間やっているが最初は若い医師なので、村長とか住民は、総合医とはどんな医者なんだという戸惑いみたいなのがあって、わざわざ30分かけて帯広の病院に行っていたが、最近では身近でも相談できると、一旦、診療所を受診して、そのうえで必要があれば帯広の病院を紹介してもらっている。自然な受診行動に繋がっている。

司会

医療と保健と福祉が上手くいっているのですか？

草場

村の予防医療で家庭医は病気を治すことも大事ですが、病気になる前の事を考える医療が大事だと思っている。村の各地区に健康相談に行くと住民の不安とか診療所に対する不満とかを聞いたり、こう言う時に診療所を使ってくれませんかという話をしたり。地域活動は趣味ではなく仕事である。

司会

一木先生も家庭医ですね。地域の保健福祉アドバイザーとして、保健福祉をつくることから入っていく。一木先生も家庭医ですね。家庭医をめざして勉強してきました。



千葉県立東金病院院長
平井 愛山 氏

昭和50年千葉大学医学部卒業。昭和63年千葉県立東金病院院長に就任。現在、内閣官房「高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部」IT新改革戦略評価専門調査会医療評価委員会委員。医学教育など専門領域での論文多数。

日本内分秘学会内分秘代謝科専門医。

司会

一木

元々、小児科医でした。6年間、小児科をやって、そのあと家庭医の勉強を1年半位、長野にいたしました。

司会

地域で医療をやっている時に、専門の医師がいなくちゃと言う考えはやめました。羅臼に色々な専門医は揃えられない。平井先生も総合医に力をいれていますよね。

平井

救急を考えると自分の病院で診れるか、他の病院に送るべきか診れる医師、全身疾患を診れる医師が必要であり、入口のゲートキーパーの出来る医師が必要なのです。

600〜800床の病院は専門医を、200〜300床の病院は総合内科医が必要です。総合内科医は専門医より技術が低いと思われているが大変な間違いである。専門医が偉いと言う概念を捨てる必要があります。

羅臼はどうですか？

羅臼はまず総合内科医が必要。あなたの専門は何ですか？と医師に聞くような住民の考え方を変えていかなければ……。

司会

平井

草場先生達がやったのは「医師を送って

司会

草場先生達がやったのは「医師を送って

草場

欲しい自治体はありませんか？手を上げてください」と新聞で公募しましたよね。総合医も専門医だと思ってる。19名の医師が所属しているが、受けていただく自治体で医者なら誰でもいいと言う訳でなく、家庭医が欲しいという所に送りたいので、今回の公募になった。

司会

自治体はどういう反応だったのですか？自治体の反応は思ったより少なく、10くらいだった。医療をどうにかしていきたい自治体が少ない。実際、検討してきたが2つの問題がありました。

草場

今いる医師への捉え方、ほとんどの自治体がこういう医師が欲しいと言うアピール、タイムミスを失っている。もう一つは、地域のしがらみがある。本来、家庭医であるべき地方の医師会などが家庭医が入ってくると患者をとられるのではないかと、今までの仕組みを打ち壊していかなければいけない。

司会

まだ派遣先は決まっていらないんですね。まだです。

司会

医療コンサルタントの高橋さんに伺いたいのですが、羅臼はどうなのですか？

高橋

羅臼の医療は、入院や救急の件にしても提供できる医療が整っていないし、経営の面でも厳しい状況が続いています。医療に対する明確な考えを行政がもってこなかった面もある。今年1億を超える赤字が出るでしょう。(当初予算に比べ約5千万ほどの増の見込)

司会

赤字の原因は何ですか？

高橋

人件費の問題もあるが東の果てであるためか、これまで委託契約や材料費など業者との交渉で十分な削減効果が出ていない面があった。今後更なる自助努力が必要と思う。

司会

高橋

経営的には待ったなしですね。このままの状況で推移すると、第2の夕張になるのは間違いない。町の「医療再生プロジェクト」が出した方向性は、まず住民が町内の診療所に受診してもらいたい。救急は仕方ないがきちんと時間内に受診をして、休日時間外にコストをかけない。今後は、総合医による予防医療を推進しながら医療費を削減していくべきではないか。更別村は医療費が低い。家庭医が来たことで、受診数が増えている実例もある。

羅臼の地域医療の推進に向け…

試される「地域力」

司会

一木

羅臼はこうしたらいいの？ 羅臼町長の決断はスパッと救急を止めたり、決断力がある。町民から相当やり込められたのでは？家庭医を中心とした、



羅臼町医療再生プロジェクト
アドバイザー
高橋 宏昌 氏

北海道大学大学院 経済学研究科終了
㈱地域医療研究所代表取締役。専門は病院の事業再生。夕張市村上医師とともに、経営担当副院長として夕張医療センターの設立に関与。

足立

地域医療再生が一番良いのではないかとと思う。このことを実践していくと保健福祉との連携も出来る。行政や町民が自分達の事として考える必要があります。住民が出来ることをやっていく。医療に対する意識を変えていく。医者を喜ばせるいい患者になることでしょう。

草場

地域に医者は来ないのではないかとという人もいるが、私は、地域に行きたい医者はいると思ってる。問題は、何を求めているのが重要。金ではなく、医者としてのプライド・誇りです。家庭医も専門医であるという誇りを持てるか。更に、そういう医師を迎え入れる地域づくりが必要と考えます。

平井

住民に考えてほしいことは、医師と協力して健康づくりに努力している住民がたくさんいる地域づくりを望む。行政に考えてほしいことは、その地域に多い病気で医療費がかかっているのはどんな病気なのか。それを減らすには何をしたらいいのか。どこにお金を使うかが大事なことです。

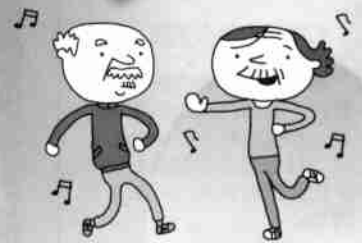
また、町の保健師を活用し、保健・医療体制をどうするか、町民と一緒に考えていただきたいと思っています。

司会

現在、羅臼の医療はピンチの状態だと思いが、同時にチャンスでもあります。今回のパネラーの皆さんは、地域医療を考える上で、現在、日本のトップを走っている方々です。今日のお話しを聞いて、次は、「行動だ！」ということがお分かり頂けたのではないのでしょうか？ご活躍を期待しております。

踊って笑って

介護予防をしましょう！



みなさんこんにちは。みなさんは、「介護予防」という言葉をご存知ですか？
介護を必要としないくらい元気な、いきいき生活して病気の予防に気をつけましょう。という
言葉です。

ここでは、包括支援センター・社会福祉協議会そして、保健福祉課で実施しているリハビリ相
談会などの活動について紹介させていただきます。

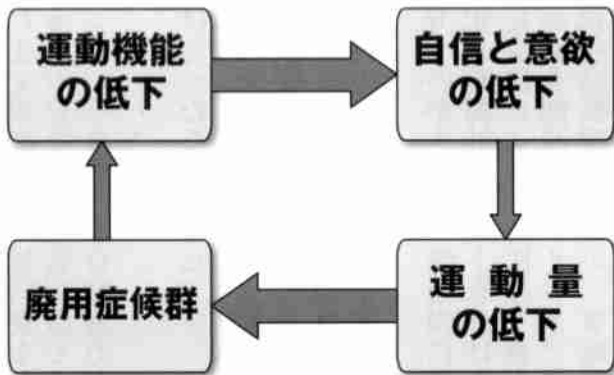
いっしょに おどりませんか
shall we dance ?

～楽しく羅臼音頭～

昨年、体育館職
員や社会教育の方
の力をお借りしな
がら、羅臼音頭を
ベースに介護予防
体操を作成しまし
た。お年寄りが集
まる機会には、積
極的に参加させて
いただきながら、
皆さんの前で披露
してきましたが、
皆さんはもう踊ら
れましたか？
年をとってから

介護予防の考え方 老化と廃用の悪循環

※廃用:使わないことで身体機能などが低下すること



笑う門には福来る

～高齢者サロン～

月に1回、市街地と、峯浜町にて高齢者い
きいきサロンを開催しています。毎回20人
前後の方々に参加していただいています。が
ゲームをしたり、体操をしたり、みんなで料
理を作って試食したりと、楽しく笑いが絶え
ないサロンになっています。羅臼の長い冬を
家の中で閉じこもって過ごしては勿体無
いとは思いませんか？楽しく会話をし、全
身を動かし、頭も使うことは、認知症の予防
にもつながります。新しく何かに参加するこ
とは、かなりの体力を使うことではありません
が、きつと心地よい疲れが得られ、気分も明
るくなると思います。

次回の日程は2月12日(木)峯浜町コミュニ
ティーセンター(峯
浜)松法町まで、
2月26日(木)羅臼町福
寿園(岬町)市街地
区までで開催する
予定です。送迎もあ
りますので、参加
をご希望の方は一
度、社会福祉協議
会までご連絡くだ
さい。(電話871-
3243)



も、「元気がほしいー」「いきいきと暮らしていきたいー」といふことは、誰しもが考えることですよ。

一般的には、運動機能の低下は下肢から始まると言われています。立ち上がりが困難になり、歩くことが困難になり、外出する機会が減り、歩かなくなることでもた筋力が落ちていくという悪循環が起きてしまうのです。冬場になると路面状況も悪くなり、転倒する危険も増えてきますね。冬場は特に閉じこもりがちになってしまいます。そんな羅臼の冬を乗り切る意味でも、羅臼音頭を覚えてみませんか？



「楽しく羅臼音頭」で足腰いきいき！

高齢者サロンや、お年寄りの集まりなどに足を運び、皆さんの前で披露しつつ、一緒に体操を行ってきました。この体操は、下肢だけでなく、全身の筋肉をほぐし、柔軟性を高める上で効果的な体操になっています。曲にもこだわりの、聞きなれた羅臼音頭をベースにして、体操のやり方を声で吹き込んであるので、初めての方でも直に取り組めるものになっています。

楽しくみんなで体を動かして、元気でいきいき暮らしてみませんか。

昨年は、「楽しく羅臼音頭」のCD化を試みましたが、今年は、映像としても残しておきたいと考えています。皆さんにより分かりやすく広めていくために、体操のモデルになっていた方々を募集しています。「是非、私がい」と言っ方、役場地域包括支援センターまでご連絡ください。(電話077-58800)



リハビリ相談会

いくら健康に気をつけていても、年齢を重ねるに連れて、足腰は弱ってきてしまいます。また、病気の後遺症で体が不自由になってしまった方もいるのではないのでしょうか。近年の医療技術の進歩により、脳血管疾患（脳梗塞や脳出血など）で命を落とす方の割合は減ってきました。しかし、脳に障害を受けることで、何らかの後遺症が残ることも少なくありません。命を落とすことが少なくなった代わりに、後遺症と長く付き合っているかなくてはならない方は増えてきているのではないかと思います。羅臼町にはリハビリの専門家がいないため、年に数回「NPO法人りらいふ（札幌）」から体と言葉のリハビリの専門家を呼んで、希望される方に来所や訪問にて相談にのらせていただいています。次回は言葉のリハビリの先生に來町してもらい、3月17日～19日に開催する予定です。「脳血管疾患の後遺症で話すことが不自由になってしまった」「最近飲み込みがうまくできない」「認知症についての相談をしたい」という方は、2月10日までに役場保健福祉課 保健師眞鍋までご連絡ください。(電話877-2161) リハビリ相談会のご質問もお受けいたします。



城下町のわだいな

みんながまちづくり

町では協働のまちづくりを推進しています。
ここでは、町民や団体が自らの意思で「協働のまちづくり」を実践している方々を中心に取上げ掲載して行きたいと考えています。
みなさんも「協働のまちづくり」にご参加下さい！

12月8日(月)

羅臼消防署3台目の高規格救急車納車

～羅臼漁協 サケ定置漁業者の寄附で整備～



(左)町長 (右)川村副部長

平成19年12月に定置漁業者から頂いた寄附で発注していただいた高規格救急車が納車されました。

この高規格救急車は、最新型の防振動ベッドを装備し傷病者への衝撃を軽減できるように考えられています。その他にも最新の医療機器が搭載されており、町民の命を守る大切な一台として活躍が期待されます。

これで、羅臼町の救急車は3台全てが高規格となりました。サケ定置漁業者のみなさんに感謝し、大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

12月3日(水)

安心で安全な羅臼の海の幸を給食に

～羅臼漁協刺し網部会と女性部が

ホッケのすり身を提供～



羅臼漁協刺し網部会がホッケを提供し、女性部が自分たちの手でホッケを捌き、すり身にして給食の食材として提供してくれました。

これは、漁協女性部の発案で行なわれ、すり身は給食センターで調理され、給食につみれ汁として子ども達に届けられました。

田中郁子女性部長は「来年も給食センターと話し合い何か提供していきたいと思っています。また、この様な



漁協女性部のみなさんが、一生懸命作ってくれました。

事業ができるのはみなさんの協力があつての事なんです」と話してくれました。

1月11日

元気を筆で表現 第三十八回小学生書初席書大会開催

表彰結果

羅臼町公民館で約20名の小学生が書き初めを行いました。

子どもたちは、お母さんに見守られ少し緊張しながらではありましたが、練習の成果を精一杯筆に込めて書いていました。



真剣な眼差しで筆を進めていました。

一年生	町長賞	高原 将也(礼文町)
	金賞	石崎 椋(礼文町)
二年生	商工会長賞	山下 玲奈(礼文町)
	金賞	新濱穂乃花(富士見町)
三年生	公民館長賞	菊池 愛里(麻布町)
	金賞	小川 穂純(湯ノ沢町)
	銀賞	丸山 弘夏(礼文町)
	銅賞	小寺由希子(富士見町)
	銅賞	松田しぐさ(緑町)
四年生	最優秀賞	小倉 千波(礼文町)
	漁協組合長賞	
五年生	教育長賞	釣 香沙実(麻布町)
	金賞	遠藤 世志(岬町)
	銅賞	菊池 琢磨(麻布町)
	銅賞	澤山 大陸(共栄町)
六年生	議会議長賞	山崎 佳奈(富士見町)
	金賞	根塚 康介(本町)
	銀賞	小寺 永真(富士見町)
	銅賞	藤本 優雪(海岸町)
	銅賞	山崎 真央(栄町)

(敬称略)

1月9日(金)

春松中学校音楽部 全道リコーダーコンテスト 5年連続出場

春中音楽部(部員6名)は、昨年11月に開催された根室管内リコーダーコンテスト合奏部門において金賞と会長賞を受賞し全道大会へ出場しました。

全道大会は札幌サンプラザホールを会場に行なわれました。

昨年までは、重奏部門に3年生を中心としたメンバーが出場しており、今回出場したメンバーは全員初の全道大会出場でした。

小島副部長は「全道大会出場は1年生の時から目標でしたので、出場できて嬉しかったです」。小林部長は「舞台袖で全員が緊張してしまいました

が、精一杯演奏しました。また、全道のレベルの高さと自分たちとの音色の違いに驚きました。後輩には、経験を生かしてこれからも頑張ってください」と話してくれました。



写真は管内大会のもので、左から工藤世愛・小島綾姫・森文香・小林明可・水口和音・安部麻友子。中央：古澤千賀子(指揮者) ※敬称略

情

RAISU TOWN 報ひろば

INFORMATION

保健福祉課
☎ 87-2161

今月のヘルスチェック ノロウイルス 攻略ガイド

寒い季節になると流行してくる感染症。特に冬場はノロウイルスの感染が多い季節です。

ノロウイルスは食品が原因の食中毒よりも、人から人へ広がる感染症としての流行が増えています。主な症状は下痢・嘔吐などで、通常なら1~2日で症状は落ち着きます。ノロウイルスは特效薬やワクチンが無いので、自然に回復を待ちますが、抵抗力の弱い子どもや高齢者は重症化する危険もあるので要注意。また症状が無くても1週間~1ヶ月間ウイルスの排泄が続くため、人にうつさない気配りも必要です。ノロウイルスは、乾燥すると菌が舞い上がって感染を広げることもあります。

予防するには念入りの手洗いと、食べるものはしっかり加熱する事が基本ですが、もし症状のある人が出てしまった場合には、感染を広げないために嘔吐などで汚れたものは、すぐに殺菌処理が必要です。とても感染力の強い菌なので、直接手で触れないように気をつけてください。

ほくでん停電情報 サービスのお知らせ

停電発生時に専用フリーダイヤルへお掛けいただきます

と、無料で現在の停電地域などを音声メッセージによりお知らせする「ほくでん停電情報サービス」を実施しております。

専用フリーダイヤル

0120-547-121 (24時間対応)

※数分程度の短時間停電については、サービスの対象外となります。

※停電発生から音声メッセージによるお知らせまでには、若干の時間を要する場合があります。

【お問合せ先】

北海道電力(株)釧路支店お客様センター

TEL (0154) 23-1112



エネモ

政管健保は「協会けんぽ」に 変わりました

政府管掌健康保険は、平成20年10月から新たに設立された全国健康保険協会(協会けんぽ)が運営しております。

現在お持ちの保険証は切替えが終了するまで有効であり保険給付の内容には変わりありません。

全国健康保険協会に関する詳細につきましては、

<http://www.kyoukaikempo.or.jp/> をご覧ください。

【お問合せ先】

全国健康保険協会(協会けんぽ)北海道支部

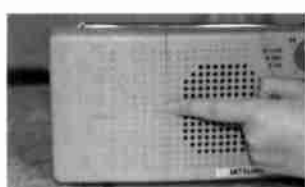
TEL (011) 726-0352

防災行政無線個別受信機の電池 交換のお願い

皆さんのご家庭に設置してありますこの受信機は停電や戸外への持ち出しの際にも使用出来るよう乾電池が入っています。しかし、乾電池が切れていると万一の場合使用する事が出来ませんので年に1度は交換して下さい。交換方法は左記の通りです。

【お問合せ先】

総務企画財政課 TEL 87-2111



①真ん中を押し、ふたを左側にスライドさせて下さい。



②受信機の中に乾電池がありますので、単2又は単3の乾電池を4本入れて下さい。

TAXコラム

(税務課通信)

新年あけましておめでとうございます。
 昨年の11月から12月に実施した取り組み
 をお知らせします。

- ①昨年の夏以降、町内の個人事業主や法人
 に対し、国税当局による税務調査が実施
 されました。
 その結果、調査対象者の所得が増額とな
 り、その影響で町・道民税も増額となり
 ました。
- ②昨年11月から根室支庁と共同で実施して
 いた町民税及び道民税の「共同催告・差
 押予告・預金差押」の結果、収納件数は
 59件で、収納額として3,243,307円の滞納
 額を徴収することができました。
 この共同催告は例年実施しているもので
 あり、支庁の税務課職員と共同で行って
 いるものであります。

このように今後も引き続き、完納者の
 方々に対して不公平のないよう滞納者に対
 しては、より一層の強化を図りながら、滞
 納処分情報を広報に掲載し、周知してい
 ます。

町税滞納収納額の動き (単位:円)

区分	H20/12月	H19/12月	増減額
税務課収納額	22,436,927	22,377,801	59,126
広域機構収納額	11,135,079	17,863,519	△6,728,440
収納合計額	33,572,006	40,241,320	△6,669,314

〈お問合せ先〉役場税務課 Tel.87-2113



秋サケ水揚“8年連続日本一!!”

～秋サケ定置 漁協別水揚～

“秋サケ定置水揚日本一”は平成13年か
 ら続いており、平成20年については平成19
 年に比べ数量で約7割、金額で約9割と、
 下回る結果となりましたが、8年連続の“日
 本一”となりました!

平成20年 秋サケ定置 漁協別水揚結果

(上位5位まで)

順位	漁協名	数量	金額
1	羅臼漁協	1万2,009トン	57億5,500万円
2	斜里第一漁協	1万1,371トン	52億200万円
3	網走漁協	8,599トン	37億7,000万円
4	ウトロ漁協	7,207トン	32億8,500万円
5	標津漁協	6,309トン	29億6,600万円

※週刊水産新聞平成20年12月15日号より



みなさんのご意見を
 お聞かせ下さい。

町政にご意見を！
 町政ご意見箱を設置しました。

町では、町民の皆様から町政及び役
 場に関する提案・要望やご意見を広く
 伺います。

ご意見箱は、役場正面玄関入口に設
 置しておりますので、皆様の声をお寄
 せください。

寄附・寄贈
 ありがとうございます

【消防操法全国大会経費】

羅臼漁業協同組合 様

(平成20年9月17日採納)

知床・羅臼まちづくり基金

【診療所建設事業】

吉岡 和守 様

(平成20年11月11日～平成21年1
 月10日受付分掲載)

おめでとう!

平成二十一年

成人式



1月7日(水)に公民館を会場に成人式が行われました。今年の対象者は、104名。皆正装し、社会人としての第一歩を歩み始めました。当町では、「成人式は、地元で！」という方々が多く、久しぶりに会う友人達と声を掛け合う姿がとても印象的でした。



記念講演には、元ソルトレイクパラリンピック日本代表スキヤー田中哲也さんにお越しいただき、「自分の可能性を信じて生きろ！」と題して、自らの経験から、あきらめないで前向きに生きるということをお話いただき、新成人に勇気と希望を与えてくれました。



「成人の誓い」は、坂本勇介君と今野恵美里さん、「交通安全宣言」は、今野雅規君と川野有華さんが行い、社会の一員として新成人らしく元気の良い宣誓をしてくれました。成人式挙行前には、「一一〇番の日」の写真を撮り、女性12名がPRに協力してくれました。



また、今年もアトラクションにはブルーイーグルスの皆さんが応援にかけつけ成人式に華を添えてくれました。ブルーイーグルスの皆さんありがとうございました。



子どもたちに 本をありがとう



休室日 1月30日(金)

(社)根室地方法人會羅臼支部(小川勝弘支部長)様より、設立20周年記念事業として「児童教育の向上のために」と140冊余りの児童書をいただきました。町財政の厳しい折、子どもたちが夢を持てる教育環境を守る社会貢献事業に心から感謝申し上げます。



「仕事・職業」(ポプラ社)低学年から読める「伝記絵本シリーズ」や「ジュニア版まんがプロジェクトX」など、仕事や職業について知り未来に夢を育む本。



「日本の水産業」「宇宙」「魚・水の生物のふしぎ」「鳥の形態図鑑」「世界遺産」「図解三国志大事典」「初級クラウン英和辞典」「齋藤孝先生のズバリ攻略シリーズ」「理科なんてかんたんだ」など学習に役立つ本も!

知識を深める本



未来に夢をつなぐ本

いただいた本

50センチのビッグ絵本も充実!

8冊購入…貸出しOK。教室やご家庭でもどうぞ。



絵本からよみものへ、移行期のおはなし集「ぶたのぶたじろうさん」や中高生たちの熱い支持を受け続ける「ぼくらの七日間戦争」シリーズ。装丁も新たに変わった「グリーン・ノウのお客さま」などロングセラーの読み物も多数。

夢中になるよみもの



一度は読みたい名作

こどものためのシェイクスピア作品やトルストイ作品。ヴィクトル・ユーゴーの「レ・ミゼラブル」教科書に掲載されている名作を集めた「光村ライブラリー」中学校編「復刊した「アンドルー・ラング世界童話集」など大人にもおすすすめです。

●新刊案内●

小説

「告白」湊かなえ「彼岸花」宇江佐真理「彼女について」よしもとばなな「悼む人」天童荒太「聖女の救済」「ガリレオの苦悩」東野圭吾「左岸」江国香織

教養・社会問題

「遺品整理屋は見た!」吉田太一「おひとりさまの法律」中沢まゆみ「勝間和代の日本を変えよう」「Xデーにそなえる新型インフルエンザ完全対策ブック」

実用書

「圧力鍋ヘルシー料理術」「はじめての飾り結び」「はじめてのフェルトケーキ」

●本の取扱い注意!

- 冬は危険がいっぱい
- 水(雪)ぬれ注意
- 暖房機の熱にあてないで
- 車内のヒーターもご用心

らうす旬街道



湊屋 清さん御夫妻

元羅白町議会議長

みなと

湊屋

きよし

清さん

みなさんの支えがあったからこそ

～旭日双光章受賞～

昭和43年から10期40年間、羅白町町議会議員（内2期8年間議長）として町の発展にご尽力いただいたいき、この度、旭日双光章を受賞された湊屋清さんにお話を伺いました。

「昭和43年当時は、国道や漁港など生活基盤の整備が不十分で、町長や先輩議員のみなさんが陳情などご尽力していたことを覚えています。

私も知床横断道路の整備では、建設予定の山道を歩いて視察し、早期整備を陳情したり、羅白町史の編集委員として町の歴史をまとめるなど町議として活動させていただきました。

旭日双光章の受賞については、みなさんのご支援とご協力があったから、いただいた賞ですので、みなさんを代表しての受賞だと思っています。ですから、みなさんには感謝の気持ちでいっぱいです。

これからは、支えてくださった方々に自分ができることで、恩返ししていきたいと考えています。

また、議員を続けられたのは、ご支援くださった皆さんはもちろんですが、家族の理解が無ければできませんでした。家族には、心の中で感謝しているんです」との言葉に、隣で微笑んでいる奥様がいらつしやいました。

人の動き

平成20年12月末現在
() 内は平成20年10月末対比

人口	6,210人	(- 6)
男	3,097人	(- 2)
女	3,113人	(- 4)
世帯	2,199世帯	(- 1)

編集後記

☑職場に感謝
自分ひとりで出来るつもりが、うまくいかないことがあります。その時、周りの方々が協力してくれて、ひとりでやるよりもっとうまくことがあります。そういう職場で仕事出来ることに感謝し、自分は幸せだと思えます。(K)

羅白いさり火吟社

長話ジツと聞いてる残り菊
残菊や戦地で散りし友徳ぶ
残菊やまなき庭に嘆き乱れ
残菊や知床嶺々の白景色
行間に鹿の声置き読書かな
貧しくも母の温もりさつま猪
秋赤し野鹿の尻毛白くして
秋思ふ暮鐘余韻を残しつつ
根元より彩寂しきや残り菊
焼き芋を賣いて温々日暮れ道

宮腰 鹿山
長岡 佳雪
中村 栄一
小泉 恭輔
山中 英美
浜田 羅牛
川端 白浪
竹内 因奈
伏見三千代
小野奇千鶴枝

11月例会句
平成20年11月21日



世界自然遺産のまち・知床羅白町

■広報らうす 平成21年1月号 編集/羅白町 総務企画財政課 広報統計係

〒086-1892 目梨郡羅白町栄町100番地83

☎0153-87-2111

http://www.rausu-town.jp/